

令和3年度 第2回 大阪市障がい者施策推進協議会 障がい者計画策定・推進部会  
議事要旨

日時：令和4年3月7日（月）午前10時～午前11時30分

会場：大阪市役所 屋上階P1 共通会議室

【議題1 令和4年度大阪市障がい者等基礎調査について】

《資料1-1、資料1-2について説明》

- ・ 前回調査の有効回収率は38.4%であるが、低いのではないかと。  
⇒統計的には低い値ではないが、回答率を上げるための工夫は考えていきたい。
- ・ 3年に1度の調査実施の負担は大きい。例えば、2回に1回はコンパクトにするなど、工夫の余地があるのではないかと。

【報告事項(1) 「大阪市障がい者支援計画・第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画」の推進 ～～新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の取組～～】

《資料2について説明》

- ・ 高齢者や精神障がい者にとって、コロナ感染は、早期治療が重要であり、PCR検査を早期に実施し、早期の軽症の段階で医療に繋げることが一番大事である。
- ・ 精神病院におけるオンライン面会については、タブレットや通信環境のインフラ的なハードルが高く、許可される病院が少ないので、大阪市にも協力いただきたい。
- ・ 介護者である親が入院しなければならなくなった場合、例えば医療型短期入所利用などの対策が必要ではないかと。
- ・ グループホームの利用者が陽性で自宅療養になった場合、スタッフも介護が難しい。設備などの対応の充実を考えてほしい。
- ・ ワクチン接種について、高齢分野と同様にスタッフなどの優先接種を考えていただきたい。
- ・ 「基幹相談支援センターを通じて事業者間で連携して対応していく体制」との記載について、教えていただきたい。  
⇒コロナ対応にかかる個別の事案について、場合によっては福祉局も間に入りながら、基幹相談支援センターが中心となって事業者間で連携して支援体制を調整して対応することができたという趣旨である。レッドゾーンでも支援いただける事業所の調整なども実施した。
- ・ 自宅での療養が余儀なくされている場合、陽性者の介護に陽性者又は濃厚接触者が介助者として入るという「陽々介護」が起こっている。
- ・ 発達障がいのある人で、感覚過敏があり、ワクチンを怖がる人もいる。ニュースなどで後遺症のことを聞くと、親も怖がり打たせない。丁寧な説明が必要である。
- ・ ICTを導入している事業所とICT化に取り組んでいない事業所の格差が出ている。好事例の紹介等、コロナ禍においてもICTを活用しサービス継続ができることを普及させると良い。

- ・ コロナ対策の中で福祉現場の職員はどういう役割で、公的にどのような支援が必要なのかについて、行政が援助や指導をしていく、或いは、人のバックアップをしていくという仕組みを作らなければ、地域生活支援拠点もほとんど機能していなかったと思われる。
- ・ コロナの影響で事業所が閉鎖しているような実態等はないのか。

**【報告事項（2） 地域生活支援拠点等における「体験の機会・場」機能の整備について】**

《 資料3について説明 》

- ・ グループホームは、特に重度で介護度が高い人にとっての設備など充実が課題ではないか。
- ・ 体験する部屋の確保の見通しはあるのか、どの程度の部屋を整備するのか、教えていただきたい。  
⇒基幹相談支援センターが確保する部屋が複数あると聞いている。加えて、ウィークリーマンション等の活用も検討していきたい。
- ・ 一人暮らしのニーズや体験のニーズはどの程度あるのか、家族から離れ一人暮らしをするところを誰がサポートしていくのか、事業内容が明確でない。具体的なイメージがわかるような提案にしていきたい。  
⇒例えば、ヘルパーと生活するとはどういうことかなどイメージを掴んでもらうための体験であり、多数のニーズがあるとは考えていないが、一つの選択肢として制度を設計していきたい。
- ・ こころの健康センターが同様の事業を実施しており、前向きに取り組んでいる。意欲喚起のノウハウなど参考にされたい。

**【報告事項（3） 長居障がい者スポーツセンター建替えに関するアンケートの実施について】**

《 資料4について説明 》

- ・ 長居スポーツセンターの現地で建替えてほしい。  
⇒建替え場所は、長居公園内で検討している。

**【報告事項（4） 障害者基本計画（第5次）骨格案等について】**

《 資料5、6について説明 》

- ・ 質疑等なし。